

【学校経営ビジョン】

「チーム東小～東小プライド・3CIS・東小の5氣」等をキーワードとし、101周年という「よき伝統の継承」を念頭に置き、「創造・工夫による改善」を図りながら、未来に向けた「新たな伝統の創造」を目指すことを教育理念とする。そして、全ての教職員の共通理解・共通実践を基盤として、「児童の確かな学力の向上」に力を入れるとともに、「東小ならではの教育活動」を展開し、保護者や地域住民の信頼と期待に応えられる「開かれた学校づくり」を推進する。

重点目標	主な達成手段	結果の考察・分析・改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価委員の意見
知育 基礎・基本の 確実な定着と学力の 向上	1 ICTの効果的な活用を図り、単元テストにおいて、学級における平均点が「期待平均点+5点」以上を目指すように指導の徹底を図る。	1 授業が分かると答えた児童が82%以上であり、更に個別指導を徹底し学力下位層の引き上げに努める必要がある。	3.2	3.3	○ タブレットの活用、授業がわかる児童の率が高く、読書量も1人平均75冊以上の本を借りており、良い結果が出ていると思います。 ○ 参観してわかることだが、指導方法の工夫改善がなされていることを保護者にもわかって欲しい。 ○ コロナ禍でありながら期待以上の効果が出た。
	2 妻ヶ丘地区小中一貫教育学力向上に係る取組を通して、児童の学力向上を目指した授業実践を推進する。	2 「GIGAスクール構想」をうけて、タブレット端末の積極的活用を進め、各学年でのGoogleを活用した授業の在り方について研修を行った。今後は、タブレット端末の持ち帰りを含めた家庭での活用も図っていききたい。	3.3	2.9	
	3 図書館サポーターと連携し、読書量調査を活用し、児童一人一人の貸出数を増やすと共に、多読賞受賞者数の増加を推進し、児童の読書力の向上を図る。	3 学校での図書貸出数は2学期末で42579冊と昨年度以上である。中身のある読書と家庭でも読書の習慣ができる方策を講じていく必要がある。	3.0	3.1	
徳育 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	1 重点指導事項を活用した生活指導を実施し、「無言清掃・あいさつ(会釈)・廊下歩行・履き物並べ・立腰」等の達成率85%以上を目指す指導を推進する。	1 登校時や学校生活での返事・あいさつがしっかりとできる子とそうでない子の差がある。全員が正しくできるように学級での指導を工夫していく必要がある。	3.1	3.4	○ コロナの影響からか会釈を含めあいさつする児童が少なくなったと感じられます。 ○ 学校を楽しく思う児童が多い反面、楽しくないと思う子が10%いることが気になります。 ○ コロナ禍でできないことが多い中、子どもたちの笑顔がとても良い。
	2 アンケートにおける「学校が楽しい」と回答する児童の達成率が95%以上になるように、道徳の時間の指導及び体験活動の充実を図る。	2 約90%の児童が「楽しい」と回答しているが、コロナ禍での行事の中止や変更、戸外遊びの時間減少など、児童の心理的ストレスが溜まってきており、見守りと指導が必要である。	3.1	3.1	
	3 学校安全計画・学校安全アクションプランに基づく避難訓練及び安全指導を実施し、「自分の命は自分で守る」児童の育成を図る。	3 感染防止の観点から実施できなかった訓練もあった。「自分の命は自分で守る」児童の育成のためにもコロナ禍でもできる訓練を検討していく。	3.3	3.0	
体育 基礎体力の向上と健康的な生活習慣の定着	1 昨年度の体力テストの結果を踏まえ、Tスコア50以上の種目を男子25、女子20以上になるように、D・E判定児童の割合が男子25%、女子25%以下になるように、体力向上プランに基づく指導を徹底する。	1 感染拡大防止のため児童同士の接触を減らすため昼休み時間をカットしたり、時間を短縮したりしたせいで、遊びを通じた体力づくりが進まなかった。また、家庭での戸外遊びも制限されていたため体力の低下が心配である。	3.2	2.8	○ 「早寝、早起き、朝ご飯」の取組は、とても良いことだと思います。 ○ 授業参観の時、どのクラスも集中して取り組んでいました。 ○ 参観日もなく子ども側からしか情報が聞けない。できないなら、面談方式や電話で学校の様子や学習への取組を伝えることもできる。
	2 重点指導事項を活用した生活指導を実施し、「早寝・早起き・朝ごはん」等の達成率85%以上を目指す指導を推進する。	2 目標を達成できていない。今後も「早寝・早起き・朝ごはん」の有用性を家庭へ啓発し、実践化への協力を依頼していく。	3.0	2.9	
	3 「親子料理・弁当の日」等の実施に向けて、関係機関等と連携し「食に関する指導」を計画的に推進する。	3 「親子料理・弁当の日」の実践は、よくできているが、食に関する指導が十分にできていないので、家庭や地域にも情報発信しながら充実を図っていききたい。	3.1	2.9	
ふるさと教育 家庭・地域との連携と開かれた学校づくり	1 学校だよりを毎月発行し、HPの更新を頻繁に行い、保護者や地域の学校の教育活動への理解を深める。	1 HPについては、学校全体での更新はできているが、各学年の更新内容が少ないので、各学年での更新を増やしていく。	3.1	2.9	○ 学校と地域が共有するために地域活動をするときに子どもたちに呼びかけをして欲しい。 ○ 学校のHP更新が少ないと思います。 ○ HPの更新は、以前より進んでいる。
	2 地域人材・素材を積極的に活用するとともに妻ヶ丘地区の活動への協力を推進する。(東っ子キッズWS)	2 2年ぶりにキッズワークショップを実施することができたが、地域に関する行事などが中止になり、地域との関わりをもつ機会が少なくなった。	3.2	3.0	
	3 学校運営協議会を開催するとともに本校の教育活動の工夫・改善を図る。	3 3回までは計画的に実施できた。コロナ禍で教育活動が制限され、工夫・改善が図れなかった。			